

6 高農基第 683 号
令和 6 年 9 月 27 日

土木工事標準積算基準書【土地改良編】の訂正について（通知）

土木工事標準積算基準書【土地改良編】令和 6 年 7 月の一部を別紙正誤表のとおり訂正しましたので、お知らせします。

土木工事標準積算基準書〔土地改良編〕正 誤 表

第Ⅱ編 土地改良標準歩掛

第7章 道路工 ①砂利舗装工

正

4-1-2 作業歩掛

敷均しにおける作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4.2 作業歩掛 (100m² 当り)

機 種	作 業 内 容	世話役 (人)	普通作 業員 (人)	敷均し機械 運転時間 (hr)	敷均し機械 運転日数 (日)
バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し 0.20	0.62	2.5	-
		舗装面仕上げ有り 0.32			
	不陸整正 +敷均し	舗装面仕上げ無し 0.20 舗装面仕上げ有り 0.32	0.96	3.8	-
小型 バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し 0.22	0.69	-	0.4
		舗装面仕上げ有り 0.35			
	不陸整正 +敷均し	舗装面仕上げ無し 0.22	0.99	-	0.9
		舗装面仕上げ有り 0.35			

4-2 人力敷均し

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

ただし、敷砂利仕上がり厚さが20cm以下に適用する。

表 4.3 人力敷均し歩掛 (100m² 当り)

作 業 内 容	普通作業員(人)
敷 均 し	1.0
不陸整正+敷均し	1.8

(注) 現地条件により仮置場からの小運搬作業が必要な場合は、別途計上する。

4-3 舗装面仕上げ

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

4-3-1 作業歩掛

舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4.4 施工歩掛 (100m² 当り)

機 種	規 格	舗装面仕上げ 機械運転日数 (日)
振動ローラ 排出ガス対策型(第1次基準値)コンバインド型	3～4t	0.2
振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3

(注) 1. 舗装面仕上げは、横断勾配等を指定する場合、は場への路面排水等の流出防止、または飛散防止の必要がある場合、第三者の通行が見込まれる場合等の簡易な締固め作業であり、締固め密度を必要とする場合は、別途計上する。

2. 振動ローラコンバインド型3～4t は賃料とする。

5. 敷砂利の使用量

敷砂利の使用量は、次式により算定する。

100m² 当り敷砂利の使用量 (m³)

=100×敷砂利仕上がり厚さ (m) × (1+K)・・・(式 5.1)

K: 材料割増率(表 5.1)

表 5.1 材料割増率 (K)

歩 掛 区 分	材 料 割 増 率	
	舗装面仕上げ無し	舗装面仕上げ有り
機 械 敷 均 し	0.16	0.19
人 力 敷 均 し	0.06	0.18

Ⅱ-7-①-2

誤

4-1-2 作業歩掛

敷均しにおける作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4.2 作業歩掛 (100m² 当り)

機 種	作 業 内 容	世話役 (人)	普通作 業員 (人)	敷均し機械 運転時間 (hr)	敷均し機械 運転日数 (日)
バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し 0.22	0.69	1.9	-
		舗装面仕上げ有り 0.35			
	不陸整正 +敷均し	舗装面仕上げ無し 0.22	0.99	3.1	-
		舗装面仕上げ有り 0.35			
小型 バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し 0.22	0.69	-	0.4
		舗装面仕上げ有り 0.35			
	不陸整正 +敷均し	舗装面仕上げ無し 0.22	0.99	-	0.9
		舗装面仕上げ有り 0.35			

4-2 人力敷均し

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

ただし、敷砂利仕上がり厚さが20cm以下に適用する。

表 4.3 人力敷均し歩掛 (100m² 当り)

作 業 内 容	普通作業員(人)
敷 均 し	1.0
不陸整正+敷均し	1.8

(注) 現地条件により仮置場からの小運搬作業が必要な場合は、別途計上する。

4-3 舗装面仕上げ

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

4-3-1 作業歩掛

舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4.4 施工歩掛 (100m² 当り)

機 種	規 格	舗装面仕上げ 機械運転日数 (日)
振動ローラ 排出ガス対策型(第1次基準値)コンバインド型	3～4t	0.2
振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3

(注) 1. 舗装面仕上げは、横断勾配等を指定する場合、は場への路面排水等の流出防止、または飛散防止の必要がある場合、第三者の通行が見込まれる場合等の簡易な締固め作業であり、締固め密度を必要とする場合は、別途計上する。

2. 振動ローラコンバインド型3～4t は賃料とする。

5. 敷砂利の使用量

敷砂利の使用量は、次式により算定する。

100m² 当り敷砂利の使用量 (m³)

=100×敷砂利仕上がり厚さ (m) × (1+K)・・・(式 5.1)

K: 材料割増率(表 5.1)

表 5.1 材料割増率 (K)

歩 掛 区 分	材 料 割 増 率	
	舗装面仕上げ無し	舗装面仕上げ有り
機 械 敷 均 し	0.15	0.16
人 力 敷 均 し	0.06	0.18

Ⅱ-7-①-2

土木工事標準積算基準書 [土地改良編] 正 誤 表

第Ⅱ編 土地改良標準歩掛

第7章 道路工 ①砂利舗装工

正

誤

6. 単価表

(1) 砂利舗装工 100m² 当り単価表

名 称	規 格	施工歩掛コード		WR208010
		単位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4.2 (機械)
普 通 作 業 員		人		# (機械)
普 通 作 業 員		人		表 4.3 (人力)
舗 設 材		m ³		式 5.1 (機械) (人力)
バックホウ運転	排出θ's対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m ² (平積 0.2m ²)	h		表 4.2 (機械)
小型バックホウ運転	排出θ's対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.13m ² (平積 0.10m ²)	日		表 4.2 (機械)
振 動 ロ ー ラ	排出θ's対策型(第1次基準値) コンバインド型 3～4 t	日		表 4.4 (機械) 必要に応じ計上
#	ハンドガイド式 0.5～0.6t	日		表 4.4 (機械) (人力) 必要に応じ計上
計				

(2) 振動ローラ 1日当り運転単価表 (欄-28 参考)

名 称	規 格	施工歩掛コード		WR208012
		単位	数 量	摘 要
運転手 (特殊)		人	1	
軽 油		L	21	
振動ローラ賃料	排出θ's対策型(第1次基準値) コンバインド型 3～4 t	供用日	2.38	
計				

(3) 振動ローラ 1日当り運転単価表 (欄-31 参考)

名 称	規 格	施工歩掛コード		WR208013
		単位	数 量	摘 要
特殊作業員		人	1	
軽 油		L	4.1	
振動ローラ賃料	ハンドガイド式 0.5～0.6t	供用日	1.59	
計				

6. 単価表

(1) 砂利舗装工 100m² 当り単価表

名 称	規 格	施工歩掛コード		WR208010
		単位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4.2 (機械)
普 通 作 業 員		人		# (機械)
普 通 作 業 員		人		表 4.3 (人力)
舗 設 材		m ³		式 5.1 (機械) (人力)
バックホウ運転	排出θ's対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m ² (平積 0.2m ²)	h		表 4.2 (機械)
小型バックホウ運転	排出θ's対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.13m ² (平積 0.10m ²)	日		表 4.2 (機械)
振 動 ロ ー ラ	排出θ's対策型(第1次基準値) コンバインド型 3～4 t	日		表 4.4 (機械) 必要に応じ計上
#	ハンドガイド式 0.5～0.6t	日		表 4.4 (機械) (人力) 必要に応じ計上
計				

(2) 振動ローラ 1日当り運転単価表 (欄-28 参考)

名 称	規 格	施工歩掛コード		WR208012
		単位	数 量	摘 要
運転手 (特殊)		人	1	
軽 油		L	13	
振動ローラ賃料	排出θ's対策型(第1次基準値) コンバインド型 3～4 t	供用日	1.26	
計				

(3) 振動ローラ 1日当り運転単価表 (欄-23 参考)

名 称	規 格	施工歩掛コード		WR208013
		単位	数 量	摘 要
特殊作業員		人	1	
軽 油		L	3	
振動ローラ賃料	ハンドガイド式 0.5～0.6t	供用日	1.74	
計				

第7章 道 路 工

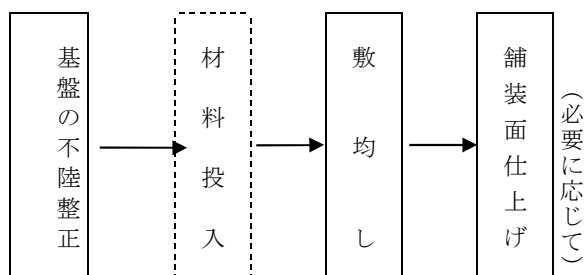
① 砂利舗装工

1. 適用範囲

本歩掛は、耕作道路等における碎石等の敷均し作業に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
2. 路床の掘削作業は含まない

3. 歩掛の適用区分

歩掛の適用区分は、次表を標準とする。

表 3.1 適用歩掛区分

適 用 範 囲	敷 均 し 区 分	舗 装 面 仕 上 げ 区 分
敷均し幅 2.5m以上	バックホウ敷均し	振動ローラ コンバインド型
敷均し幅 2.0m以上 2.5m未満	小型バックホウ敷均し	振動ローラ ハンドガイド型
敷均し幅 2.0m未満	人力敷均し	

4. 作業歩掛

4-1 機械敷均し

敷砂利仕上がり厚さは、5cm 以上 20cm 以下に適用する。

4-1-1 機種を選定

機種は、次表を標準とする。

表 4.1 適用機種

機 種	規 格
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値)
	クローラ型 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)
小型バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値)
	クローラ型 山積 0.13m ³ (平積 0.10m ³)

4-1-2 作業歩掛

敷均しにおける作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4.2 作業歩掛

(100m² 当り)

機 種	作 業 内 容		世話役 (人)	普通作 業員 (人)	敷均し機械 運転時間 (hr)	敷均し機械 運転日数 (日)
バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.20	0.62	2.5	-
		舗装面仕上げ有り	0.32			
	不陸整正 +敷均し	舗装面仕上げ無し	0.20	0.96	3.8	-
		舗装面仕上げ有り	0.32			
小型 バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0.69	-	0.4
		舗装面仕上げ有り	0.35			
	不陸整正 +敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0.99	-	0.9
		舗装面仕上げ有り	0.35			

4-2 人力敷均し

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

ただし、敷砂利仕上がり厚さが 20cm 以下に適用する。

表 4.3 人力敷均し歩掛 (100m² 当り)

作 業 内 容	普 通 作 業 員 (人)
敷 均 し	1.0
不陸整正+敷均し	1.8

(注) 現地条件により仮置場からの小運搬作業が必要な場合は、別途計上する。

4-3 舗装面仕上げ

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

4-3-1 作業歩掛

舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4.4 施工歩掛

(100m² 当り)

機 種	規 格	舗装面仕上げ 機械運転日数 (日)
振動ローラ 排出ガス対策型(第1次基準値)コンバインド型	3～4t	0.2
振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3

(注) 1. 舗装面仕上げは、横断勾配等を指定する場合、ほ場への路面排水等の流出防止、または飛散防止の必要がある場合、第三者の通行が見込まれる場合等の簡易な締固め作業であり、締固め密度を必要とする場合は、別途計上する。

2. 振動ローラコンバインド型 3～4t は賃料とする。

5. 敷砂利の使用量

敷砂利の使用量は、次式により算定する。

100m² 当り敷砂利の使用量 (m³)

=100×敷砂利仕上がり厚さ (m) × (1+K)・・・ (式 5.1)

K : 材料割増率(表 5.1)

表 5.1 材料割増率 (K)

歩 掛 区 分	材 料 割 増 率	
	舗装面仕上げ無し	舗装面仕上げ有り
機 械 敷 均 し	0.16	0.19
人 力 敷 均 し	0.06	0.18

6. 単価表

(1) 砂利舗装工 100m² 当り単価表

		施工歩掛コード		WR208010
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4.2 (機械)
普 通 作 業 員		人		〃 (機械)
普 通 作 業 員		人		表 4.3 (人力)
舗 設 材		m ³		式 5.1 (機械) (人力)
バ ッ ク ホ ウ 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	h		表 4.2 (機械)
小型バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.13m ³ (平積 0.10m ³)	日		表 4.2 (機械)
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型(第1次基準値) コンバインド型 3～4 t	日		表 4.4 (機械) 必要に応じ計上
〃	ハンドガイド式 0.5～0.6t	日		表 4.4 (機械) (人力) 必要に応じ計上
計				

(2) 振動ローラ 1 日当り運転単価表 (機-28 参考)

		施工歩掛コード		WR208012
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
運 転 手 (特 殊)		人	1	
軽 油		L	21	
振 動 ロ ー ラ 賃 料	排出ガス対策型(第1次基準値) コンバインド型 3～4 t	供用日	2.38	
計				

(3) 振動ローラ 1 日当り運転単価表 (機-31 参考)

		施工歩掛コード		WR208013
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	1	
軽 油		L	4.1	
振 動 ロ ー ラ 賃 料	ハンドガイド式 0.5～0.6t	供用日	1.59	
計				